

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[神戸大学附属中等教育学校] 担当教諭名[岩見 理華・正井 裕子]
 (生徒会 Global Career Committee ユネスコスクールアートマイルチーム 3(中学3年 4名 高校1年 20名)
 交流相手国[フランス]
 海外学校名[Le Likés] 担当教諭名[Catherine Montfort]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	放課後等の校外活動	自己紹介英文作成、テレビ会議、テーマ学習、 構図の検討、壁画の制作、制作ビデオ作成等	30

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Water Management (水資源管理)
絵に込めたメッセージ	構図は「つながり」を意識しました。具体的には日本とフランスで一つになる地球や虹、双方から流れる川がつながっています。真ん中にある地球は蛇口から水が出ていてその中にあります。蛇口をひねれば簡単に水を得られることと、地球が水によって支えられているというメッセージがあります。 地球にはコップがのっていてコップがある地に住む人がどれだけ水が使えるのかということを表しています。また虹は私たち水と平和という観点で描きました。 その他にも水と自然というテーマで鯉や花を、水と文化というテーマで酒や水がめを、港町神戸ということでポートタワーや船を描きました。また水問題ということで、水汲みをさせられる少年や、水が得られない地域に日本が作った井戸などを描きました。
 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・有志生徒で取り組んだことにより、意欲的な取組ができた。 ・参加生徒が共通の目的を持つ本プロジェクトを通して学年を越えた協力関係を築くことができた。 ・ESD(3年生)、英語の授業(4年生)で学習した知識をプロジェクトの成果物に活用することができ、体験にもとづいた学びにつながった。	・交流相手が職業訓練コースの生徒であったため、インターンシップ等校外学習で不在がちであったことや考査の日程が互いにずれていたこともあり、教員・生徒ともにテレビ会議等、交流する時間の調整が難しかった。交流活動について事前に周到な計画をたてる必要があると感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
相手校との交流が少なかったのをとても残念に思っていた。一度テレビ会議をしてからは個人的なつながりも生まれ、国を越えて芸術でつながる楽しさを感じることができたようである。また調べ学習を通して日本の「水」についての理解も深まった。	「水」という壁画のテーマを通して、絵に描かれたものから文化の違いや互いの国の生徒たちが「水」についてどのような認識を持っているか理解させることができたと思う。世界の水問題について互いに話し合う機会が持てればもっとよかった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月～11月	自己紹介の英文を考え、写真とともに相手校のフォーラムに掲載した。相手校からも代表生徒から学校やメンバーの紹介のファイルをフォーラムに送ってもらった。テレビ会議で互いの学校について紹介した。	フォーラムやテレビ会議を通して直接つながる楽しさを感じていた。テレビ会議では相手に自分たちのメッセージを伝えようと積極的に取り組む姿勢がみられた。	放課後2
テーマ学習	10月11月	3年生はESDの授業で、4年生は英語(コミュニケーション英語Ⅰ)の授業で世界の水問題について学習を進めていた。	世界には「水」を取り巻く様々な問題(貧困や健康の問題)があることを再認識し、その解決に向けて自分たちには何ができるかということについて考えようとしていた。	ESD 英語6
構図決定	12月	各自で「水」について教師が提示したキーワードをもとに壁画に描きたいものをリストアップし、グループで話し合っ て決定した。相手校の生徒に説明できるように各パーツについて調べ、フォーラムに説明文を掲載した。	壁画には「水」だけではなく、地元「神戸」を表現するものも描くことを考えていた。また相手校にもフランスを象徴するようなものと自分たちが描いたシンボルをつないでもらえるように工夫していた。	放課後 4
壁画制作	12月	美術科教員が「伝統や文化」をどのように絵で表現するかも指導した。壁画のように空間を彩るものとして、日本の屏風絵を紹介し、水の流れのデザインや金色と黒を用いた独特の色使いを通し単に「水色」でない水の表現ができるようにした。	限られた時間内で集中して制作活動に取り組めた。パソコンの得意な生徒が自主的に制作活動のプロモーションビデオを制作した。本校の生徒同士学年を越えた協力関係を構築することができた。	放課後 16
鑑賞・振り返り	3月	3月23日の修了式で全校生徒に完成作品を披露して説明した。前日に壁画が相手校より返送されてきたので、参加生徒内では振り返りの時間が十分に持てていない。4月に記念写真撮影も含め振り返りの会議を実施する予定である。	全校生徒に対して報告をするためには自分たちの活動を振り返る必要があるため、発表の内容についてグループでよく話し合っていた。また相手校からの絵の説明がなかったため、本校に在籍しているフランスからの留学生が相手校が描いたものについて説明をしてくれた。	全校集会 放課後2

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に意識しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	3年生は教科 ESD、4年生は英語の授業で世界の水の問題について学習していたので、自分の国や地域(神戸)の水事情についての理解が深まった。
異文化の理解	A	4	本校ではフランスから帰国生とフランス人留学生が参加していたので、相手校からの情報の不足を補うことができ、フランス側の絵画に描かれた文化を理解することができた。
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	A	3	自分たちの描いた絵について外部の人に日本語では効果的に説明できるようになった。しかしテレビ会議の機会が1度しかなかったので英語を使う機会はあまりなかった。
情報活用能力(情報収集・発信)	B	4	インターネットを用いたテーマについての調べ学習は積極的に行うことができた。
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	A	4	3年生、4年生と学年が異なっても昼休みや放課後等の時間を利用して会議を開き、よく話し合いができた。Facebook や Skype を使って個人レベルで相手校の生徒たちと積極的に交流を行う生徒もいた。
協働する力(役割分担・協力)	A	5	絵を描くのが得意な生徒、パソコン操作が上手な生徒等、得意な分野を活かして協力して制作作業に取り組み、その成果を発表することができた。
学習を追究する意欲	A	4	「共に学ぶ相手が存在する」、「テレビ会議で直接交流できる」ということは、生徒たちの学習意欲を高めるのに積極的な要素として働いたと感じる。
表現力(伝えたいことを絵で表す)	A	5	日本や神戸の「水」のことについて、美術科の教員の支援も得ながら絵画の構図や色を決めることができた。
作品を鑑賞する力	B	3	作品が年度末ぎりぎりに到着したので、参加生徒内での振り返りの時間が十分持てなかった。新年度当初に振り返りの会議を実施する予定である。